

第一目 創始時ノ各種實施規程

- 一、本規程ハ大正七年機雷敷設檢定實施ニ關スル事項ヲ規定ス
- 二、本檢定ハ大正七年六月一日以降同年十月十五日迄ノ期間ニ於テ防備隊（臨時防備隊ヲ除ク）及阿蘇、津輕、勝力之ヲ施行スルモノトス
- 三、本檢定ハ各基本部ノ定ムル固有ノ裝備班並ニ部長ニ依リ施行シ機雷ノ裝備ニ始マリ敷設ニ終ルモノトス
- 四、本檢定ニハ左表ニ準據シ施行スルモノトス

防備隊艦船	被檢定裝備班數		使用機雷ノ種類及 其ノ個數		敷設方法	敷設諸元			
	四	六	三 個宛	各 班五 號機 雷		速力	距離	深度	水深
機須賀、吳、佐世保、舞鶴	九	九	各 班、 三、 四、 五	大形敷設艇一隻ニテ全數機雷ヲ連續一線ニ敷設スルモノトス但シ各裝備班ニテ自己ノ裝備セルモノヲ敷設スルヲ例トシ落下艇ニ就クベキ人員ハ各隊ノ定ムル所ニヨル	八節標準スト	四十五碼	敷設時水面下五十呎	五十尋以上	十二時以上
大湊、鎮海、馬公、旅順	八	八	號機雷各一個宛	敷設原働機ヲ使用シ全數機雷ヲ連續一線ニ敷設スルモノトス	八節標準スト	四十五碼	敷設時水面下五十呎	五十尋以上	十二時以上
阿蘇、津輕	六	六	各班五號機雷	敷設原働機ヲ使用シ全數機雷ヲ連續一線ニ敷設スルモノトス	八節標準スト	四十五碼	敷設時水面下五十呎	五十尋以上	十二時以上
勝力	四	四	三個宛	敷設原働機ヲ使用シ全數機雷ヲ連續一線ニ敷設スルモノトス	八節標準スト	四十五碼	敷設時水面下五十呎	五十尋以上	十二時以上

- 五、本檢定ニ使用スベキ機雷ハ豫メ各班ニ於テ檢定ニ使用スベキ各機雷ノ二倍數ヲ準備セシメ其ノ中ヨリ委員之ヲ指定スルモノトス
  - 六、裝備開始前ニ於ケル機雷並ニ附屬具ノ狀態ヲ左ノ如ク定ム
- (一) 機雷及砂糖斷線器ハ裝藥口蓋ト分離シ罐外導線保護飯ハ取付ケオクモノトス

(四) 裝藥口蓋ハ水雷罐ニ螺着シ置クモノトス

(五) 略

七、裝備ハ左記諸號ノ外總テ實裝ノモノト同一ニ行フモノトス

(一) 擬製火藥及斷電路信管ヲ使用スルコト

(二) 引揚用トシテ浮標ヲ水雷罐ニ附スルコト

(三) 深度測定ニ便ナラシムル爲水雷罐底ヲ適宜塗色スルコト

八、裝備實施中破損又ハ不具合等ノ爲使用兵器ノ取換ヲ要スルモノヲ生ジタル場合ニハ委員ノ許可ヲ得テ既記セル準備機雷用ノモノヲ使用スルコトヲ得

九、敷設深度測定法 (略)

十、敷設距離測定法 (略)

十一、開放検査ニ於テ調査スベキ主ナル事項左ノ如シ

(一) 爆發用信管竝ニ注水用信管發火ノ能否 (二) 早發機雷ノ有無 (三) 罐内浸水ノ有無 (四) 砂糖斷縁器觸着部ニ浸水ノ有無

(五) 電池力ノ測定 (六) 各部毀損竝ニ故障ノ有無

十二、機雷一個ニ對スル採點標準左ノ如シ(摘要)

防備隊ト軍艦及敷設船トニ區分シ左記項目毎ニ點數ヲ附與ス尙採點上ノ細項ヲ定メアリ

敷設距離 五、 敷設法 五、 裝備時間 二〇、 裝備(搭載及敷設準備ヲ含ム) 五〇、 敷設深度 二〇、

十三、左記各號ニ該當スルモノハ其ノ機雷ニ對スル得點ヲ零トシ注水信管ノ不發セルモノハ其ノ得點ヲ半減ス

裝備中誤發セルモノ、安全針ヲ挿入ノ儘裝備セルモノ、安全鑰ヲ挿着ノ儘敷設セルモノ、浮出又ハ沈没セルモノ、

浸水シタルモノ又ハ其ノ痕跡アルモノ、爆發信管不發ノモノ、早發ト見做スベキモノ、

十四、各班ノ成績順序ハ各擔當機雷ノ總得點ノ多寡ニ依リ決定ス但シ同點ノ班アルトキハ左ノ順序ヲ以テ上位トス

(一)浮流機雷ナキモノ (二)裝備中誤發無キモノ(以下(三)ニ至ル)

十五、委員ノ擔任事項概ネ左ノ如シ

裝備、搭載及敷設準備、揚收及揚收後ノ開放検査敷設、敷設間隔秒時其ノ他時間測定、敷設深度及敷設距離測定、潮候測定、主機機及敷設原働機操作

十六、以下委員任命、報告等ノ件 (略)

一、本規程ハ大正八年掃海檢定ニ關スル事項ヲ規定ス (大正八年 內令第五十一號)

二、本檢定ハ大正八年四月以降同年九月末日迄ニ鎮守府要港部附屬ノ在役及第一豫備ノ驅逐隊、防備隊臨時防備隊ヲ除ク之ヲ施行スルモノトス

但シ第八驅逐隊ノ外練習ノ任務ニ在ル驅逐隊ヲ除ク

三、本檢定ニ於ケル使用掃海具ノ種類其ノ他速力等ノ標準左ノ如シ

基本部	使用掃海具	速力(回轉)	掃海面	掃海ニ使用スベキ機雷
驅逐隊	大掃海具一號及二號	一號	水深二十尋以上ヲ標準トス	教練用機雷罐其ノ他類似ノモノ
		二號		
防備隊		八哩以上		罐蓋ハ圓錐形繫維器又ハ之ト略同重量適宜ノモノノ繫維索ハ三十八耗鋼纜綱

四、本檢定ハ掃海具ノ掃備、投入、曳航、處分及揚收ノ諸作業ニ就キ行フモノトス

五、檢定開始前掃海具ハ概ネ格納狀態ニ各部ヲ分離シ所要ノ場所ニ並列シオクモノトス

六、本檢定ニ於ケル掃海面ノ設備左ノ如シ(別圖參照)

一、(一)號ヲ使用スル場合ハ掃海區域外(内)適宜ノ位置ニ深度約十五呎乃至三十呎ニ掃海用機雷三個ヲ沈置シオクモノトス而シテ一號ニ在リテハ機雷ノ所在ヲ示ス爲浮標ヲ以テ表示シ二號ニ在リテハ繫雜器(罐量)又ハ機雷罐ニ適宜ノ裝置(浮標等)ヲ取附ケ置キ拘提ノ場合又ハ拘提後艦艇停止シタルトキ始メテ其ノ概位ヲ示ス如ク準備シオクモノトス但シ狀況ニ依リ止ムテ得ザレバ前記裝置ニ代フルニ認識困難ナル小形浮標ヲ以テ表示シ置クコトヲ得

#### 七、掃海實施方法左ノ如シ

一號ニ在リテハ第一回ノ掃海具裝備作業ヲ終リシ後掃海面ヲ距ル約二千米ノ位置ニ到リ投入シ次テ掃海面ニ進入シ全掃海面清掃ノ目的ヲ以テ三航過以上行動シタル後(一時間三十分以上ニ亘ルトキハ作業ヲ中止ス)城外ニ出テ委員ノ指定スル方向ニ約二十度以上ノ大角度轉舵ヲ行ヒ八點回頭時迄ニ於ケル夙其ノ他ノ狀態ヲ檢シ掃海具ヲ揚收シ揚收ノ現狀ヨリ更シ裝備シ之ガ投入ヲ行ヒ城外各機雷ニ對シ一航過ヲ爲シ掃海具ノ能力ヲ檢シ作業ヲ終結ス

二號ニ在リテハ掃海艦艇ハ第一回ノ掃海具裝備ヲ終リシ後適宜ノ位置ニテ投入ヲ行ヒ適宜曳航後揚收シ揚收ノ現狀ヨリ更ニ第二次ノ裝備ヲ行ヒ掃海面ヲ距ル約二千米ノ位置ニ至リ投入シ次テ掃海面ニ進入シ全掃海面清掃ノ目的ヲ以テ三航過以上行動シタル後(一時間三十分以上ニ亘ルトキハ作業ヲ中止シ)城外指定位置ニ至リ處分ヲ行ヒ作業ヲ終ルモノトス

(註) 指定位置ハ適宜掃海面附近ニ於テ淺所又ハ適宜ノ位置ヲ選定シ必要ニ應ジ浮標等ヲ以テ表示スルモノトス  
八、大掃海具一號及二號ニ關スル採點標準左ノ如シ(摘要)

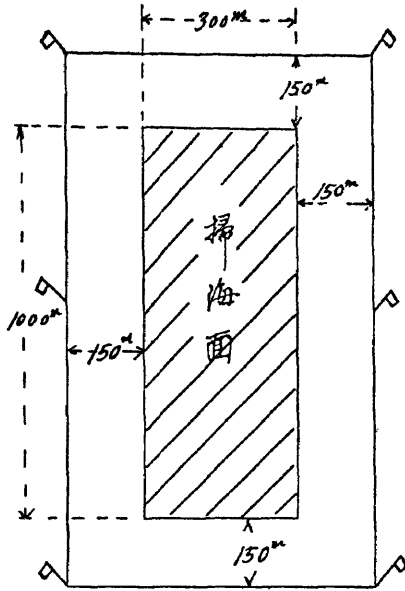
各項目毎ニ其ノ全點及採點法ヲ示ス、左ノ如シ(採點法ノ大部ハ之ヲ略ス)

裝備時間 二〇點 裝備ニ要スル時間十五分迄ヲ全點トシ二分又ハ二分未滿ヲ超過スル毎ニ二點ヲ減ズ  
取 扱 三〇 投入 一〇 深度 一〇 掃海幅員 五 揚收 五 處分 三〇

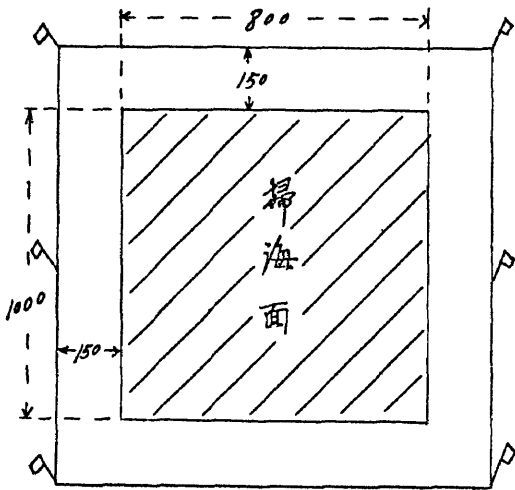
九、前記掃海具準備狀態及前條ノ取扱ニ關スル減點標準其ノ他實施上必要ナル事項ニ關スル細目ハ海軍教育本部長ヲシテ指示セシム

十、各組ノ成績ハ兩種掃海ノ合計得點ノ多寡ニ依リ決定ス但シ同點ノモノアルトキハ左ノ順序トス





掃海面圖(大掃海具一號用)



同上(大掃海具二號用)

- 十二、事故處置、委員任命、報告等(略)
- (一)第二回裝備ノ時間短キモノ  
 (二)拘提機雷ヲ感知シタル數多キモノ  
 (三)處分機雷ノ多キモノ(以下略ス)
- 十二、委員ノ分掌事項概ネ左ノ如シ
- 艦艇運動、裝備、投入、揚收、曳航狀態、處分、掃海幅員及時間測定、既掃面審査、速力測定、機雷敷設其ノ他掃海面ノ設備監視、深度測定、潮流測定



三、昭和三年度爆雷投射檢定(初回)ニ關スル規程

本檢定ハ昭和三年ノ創立ニ繋リ自ラ敷設若クハ掃海檢定等ト其ノ出生ノ體裁ヲ異ニス即チ關係規程トシテハ單ニ海軍省教育局長ヨリ關係部隊長宛「別紙標準ニ依リ審査ノコト御取計相成度」旨申進セル程度ナリ即チ投射檢定成績審査標準之ナリ要領左ノ如シ

投射檢定成績審査標準

- 一、投射檢定ハ基本檢定及綜合檢定ニ分チ審査ス
- 二、基本檢定ハ兵器、操法、裝備及投射ノ諸檢定ニ分チ各投射(下)機員毎ニ各項目別又ハ其ノ數項目ヲ併合シテ之ヲ行フ
- 三、綜合檢定ハ爆雷砲臺員全部同時ニ之ヲ行ヒ檢定項目ノ取捨ニ關シテハ基本長ノ定ムル所ニ依ル
- 四、成績順序ノ決定法左ノ如シ

- (イ) 投射檢定合計得點百分比ノ大小ニ依リ順序ヲ決定ス
- (ロ) 得點百分比相等シキトキハ左ノ順序ニ依ル
  - (一) 別表第一 第一號ノ得點多キモノ
  - (二) 別表第一 第二號(イ)及(ロ)項ノ合計得點多キモノ
- (ハ) 別表第一 第二號(イ)項ノ得點多キモノ
- (ニ) 以上ノ得點相等シキトキハ基本長適宜順序ヲ決定ス

(各別表略)

第一號ハ基本檢定第二號ハ綜合檢定ニシテ(イ)ハ基本(ロ)ハ應用(ハ)ハ戰闘投射ナリ得點ハ兵器、裝備、操法ニ分チ夫々數額ヲ定ム別ニ別表第二ヲ定メ減點事項及減點標準ヲ示ス

